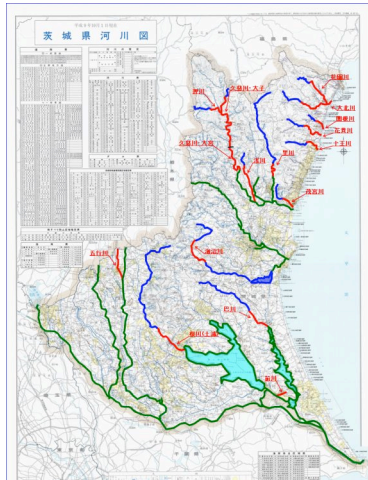


洪水ハザードマップを県民の安全な避難活動に活用

—浸水想定区域図と洪水ハザードマップの作成—

「浸水想定区域図」の作成状況

県内では、国管理15河川、県管理15河川の合わせて30河川で浸水想定区域図を作成をしています。



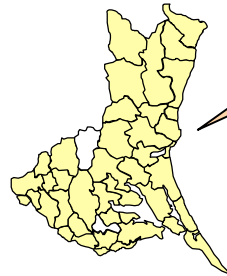
洪水時に相当な被害が生じるおそれがある河川等

●県管理河川：15河川
桜川(土浦)、五行川、前川、巴川、涸沼川、久慈川(大宮、大子)、押川、里川、浅川、茂宮川、大北川、花園川、花貫川、十王川、関根川

●国管理河川15河川でも作成済み

「洪水ハザードマップ」の作成状況

浸水想定区域図を基に、これまで対象市町村のすべてで洪水ハザードマップを作成し、住民に公表しています。



対象市町村のすべてで公表

県民の安全な避難活動等への活用



避難訓練の様子

- 近年、時間雨量50mmを超える集中豪雨が増えてきており、これらに効果的かつスピーディに対応するため、河川の施設整備と併せ、ソフト対策に取り組んでいます。
- 県では、国とともに浸水想定区域図を作成し、必要な情報提供を行うなど、対象市町村への支援を行った結果、これまでに対象市町村のすべてにおいて洪水ハザードマップが完成し、住民への公表が行われました。
- 万が一、洪水が起こったときには、この洪水ハザードマップが、県民のより安全な避難活動や情報伝達等に活用されるものと期待されます。

・洪水ハザードマップには、洪水になりそうな場所、避難する場所、避難するときの大事なことなどが書かれています。

洪水ハザードマップとは……

